

科目	神経病学	担当	佐々木 裕介	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

神経病学は中枢神経、末梢神経、筋などの診療・研究するものである。変性疾患、外傷、感染、血管病変など原因は多岐にわたり、またそれらの疾患も多い。しかもリハビリテーションの対象となることがほとんどである。それらの疾患の病態生理・概念を理解することは重要である。本科目の目標はリハビリテーションと関連する神経学的な基礎と代表疾患についての知識を身につけることである。

【履修注意】

講義内容や順番が変更される場合もある。遅刻や授業中の私語は無いようにする。
授業予定は集中講義形式で行なう。

【評価方法】

試験に加えて、出席状況、授業態度で総合的に評価する。

【試験について】

筆記試験を行う。2/3以上の出席とする。
再試験対象者の条件： 期末試験成績が60点未満の者

【予習・復習】

予習は要しないが各回90分程度の復讐は必要である。

【教科書】

書籍：病気がみえる脳・神経(第2版) 著者：尾上尚志 他 監修 出版社：MEDIC MEDIA

【参考書】

特に指定しない

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	神経学の基礎	解剖基礎、意識障害、神経学的診察
2	神経学検査法	画像診断、他検査
3	脳卒中・外傷性脳損傷	脳出血・脳梗塞・SAH・外傷性脳損傷
4	運動麻痺・感覚障害(1)	上行路・下行路、麻痺の分類
5	運動麻痺と感覚障害(2)	中枢性疾患の原因と分類、麻痺の評価、痙縮と固縮
6	錐体外路徴候・パーキンソン病	錐体外路症状、パーキンソン病
7	運動失調・小脳疾患	運動失調の原因と分類、運動協調性の評価、小脳失調症状
8	前頭葉と側頭葉	構音障害・失語症・前頭葉症状・人格変化
9	頭頂葉と後頭葉	失認症の種類・対策、失行症の種類・対策
10	大脳基底核など	記憶障害、脳梁離断症状
11	認知症と神経因性膀胱	認知症、軽度認知障害、認知機能検査、排尿障害
12	脊髄疾患	外傷・血管障害、脊髄損傷レベル、麻痺、随伴症状
13	変性疾患	脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症
14	感染性疾患、筋疾患	脳炎、髄膜炎、筋ジストロフィー、多発性筋炎
15	末梢神経障害	各種末梢神経障害
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ